

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（令和5年度）

法人名	社会福祉法人 壺中会	代表者	河田 孝美	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、ご利用者様のご要望に応じ、ご利用時間の調整を致します。 ・全職員が利用者一人一人の特性を把握し個人の思いや希望を叶えるよう努力します。 ・地域の中で安心して快適な在宅生活できるよう地域の力を繋ぎ結び付け地域の人と共に支えます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 事業所 長春苑	管理者	藪本 京子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	人	1人	人	6人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	ユニット目標が達成できるように全員が意識して取り組む。個々のスキルアップも図る。	時間を設け研修に参加できる様に取り組んだ。ユニット目標は意識して取り組む職員が前年度より増えた。	それぞれの目標を作り達成に向けて取り組んでいると思います。	職員個々のスキルアップの為、研修に参加し内容も全員が共有できるようにして行く。ユニット目標の達成を目指して行く。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所の整理整頓に力を入れ外周の環境整備も全員で取り組む。	事業所内の整理整頓が進んでいない。外周等の整備は当番制にして取り組んでいる。玄関の環境整備に力を入れた。	小規模の玄関も明るくなり利用者様の作品も飾っており良い雰囲気を感じた。外周の環境整備にも取り組んでいると思います。	職員、利用者様が心地良い環境づくりを目指して行く。季節に応じた展示物や事業所内の整理整頓を進めて行く。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナの関係もあるが「あっぱれ桃太郎体操」の再開により地域の方と交流できる様に小規模の利用者様も可能なら参加して頂く。	事業所内で何度かコロナ感染が出たり、付き添いの職員の確保が難しく参加が出来なかった。	地域の方の体操の参加が多くなっています。良い事だと思います。	少しずつコロナ前の状況に戻れるように感染対策を行いながら地域の行事にや活動に参加できるようにして行く。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナ感染予防の為、地域活動も参加可能か不透明だが事業所内のレクリエーションでも楽しんで頂くように取り組む。	地域での様々な交流の機会があり参加できる様に準備を行った。参加ができない時は他事業所から内容の報告を受けていた。レクリエーションも皆で盛り上げている。	地域へのアピールとして町内の掲示板等にグループの事業所をまとめた物を貼っても良いのでは？また、事業所の新聞を玄関に貼る等も良いのでは？	地域との関係性が保たれている利用者様に関しては関係が切れない様に支援をして行く。送迎や訪問時に地域の方に積極的に挨拶をして行く。
E. 運営推進会議を活かした取組み	引き続き資料の回覧や報告を行う。事例検討もできるようにする。	資料の回覧を行い、重要な事はミーティングでも報告を行っている。	地域の方以外の事例検討が出来たら新たな地域との繋がりができる。それぞれの専門職からの意見は大事です。	運営会議での情報は職員全員で共有し地域の困り事にも目を向ける事ができる様にして行く。
F. 事業所の防災・災害対策	引き続き事業者内の防災訓練には必ず参加する。機会があれば地域の防災訓練に参加する。	毎回、違う職員が参加できる様に取り組んだ。内容を全員に周知する事は難しかった。	地域の防災資料を作成中です。初期消火に失敗した訓練があつての成果が出ると思う。民生委員だけでは地域の要避難者を抱えるのは困難である為、委員、協会にも協力してもらいたい。	日頃から発災を意識したコミュニケーションを図る様にして行く。引き続き防災訓練に必ず参加する。